

### ヒューマンエラー

# 講座の概要(目次)

講義内容	1 時間 30 分
講義 1: ヒューマンエラーの考え方	17分
講義 2: エラーモードとは	12 分
講義 3: エラープルーフ化の原理	16分
講義4:エラープルーフ化の手順	22 分
講義 5: ISO31010 リスクマネジメント・リスクアセスメント技法	15 分

講義 1:ヒューマンエラーの考え方	17分	スライド NO.
ヒューマンエラーとは		4
MS 規格とヒューマンエラーの関係		5
ヒューマンエラーへの対応		7
日常活動における不安全行動の例		8
人間の特性とは?		10
A と B どちらが長く見えますか		11
人の注意力でエラーが防げるか		12
ミスを見逃す実験		13
人のチェックで問題を発見できるか		15

詩	義 2:エラーモードとは	12 分	スライド NO	١.
	業務にどのような作業ミスがあるのか		2	
	プロセスの活動と作業ミスの例		3	
	エラーモードの分類		4	
	作業におけるエラーモードの例(1) 作	業の計画・進捗に関する内部情報処理のミス	5	
	作業におけるエラーモードの例(2) 外	部情報の受け取りに関するミス	6	
	作業におけるエラーモードの例(3) 動	作に関するミス	8	

講義 3: エラープルーフ化の原理		16分	スライドNO.
	エラープルーフ/フールプルーフ/ポカヨケ		2
	エラープルーフ化の原理		4
	エラープルーフ化の原理の関係		5



## ヒューマンエラー

## 講座の概要(目次)

エラープルーフ化の原理と事例	排除	6
	代替化	7
	容易化	8
	異常検出	11
	影響緩和	12

#### 講義 4: エラープルーフ化の手順 22 分 スライドNO. 2 エラープルーフ化の手順 [1]~[11] [1] エラープルーフ抽出の様式を決める 3 [2] エラープルーフ化の対象プロセスを明確にする 4 [3] 対象プロセスを作業要素に展開する 5 [4] 作業要素ごとにエラーモードを明確にする 6 [5] エラーモードが与える影響を明確にする 7 m-SHEL モデル 8 m-SHEL モデルの考え方 9 [6] エラーモードの発生原因を明確にする 10 [7] エラーモードの発生実績と発生の可能性を評価する 12 [8] 異常検出能力を評価する 14 [9] エラープルーフ化の必要性を評価する [10] エラープルーフ化を行う 16 [11] エラープルーフ化の有効性評価を行う 17 エラープルーフの例 18 エラープルーフ化を考えてみましょう 19 エラープルーフ化のポイント

講義	5: ISO31010 リスクマ	ネジメント・リスクアセスメント技法	15 分	スライドNO.
	人間信頼性アセスメント	概要		2
		用途・インプット		4
•		プロセス		5
		アウトプット		7
		長所及び短所		8
	まとめ			9